

■ 日漢協トピックス ■



第74回日本東洋医学会学術総会 市民公開講座 開催

2024年6月2日(日)、大阪国際会議場において、第74回日本東洋医学会学術総会市民公開講座が「時空を超える「緒方洪庵」」と題し、開催された。本講座は、日本東洋医学会と日漢協との共催により、今回も昨年に続き、会場参加とWeb配信の併用によるハイブリッド開催となった。当日の参加者数は、来場106名、Web視聴96名の合計202名であった。

まず、会の冒頭、日漢協を代表し、町田吉夫常務理事より開会の挨拶があった。



【会場の様子】



【町田 吉夫常務理事】



【梶本 めぐみ先生】

その後、講演のセッションに入り、座長を梶本めぐみ先生（関西医科大学 総合医療センター 産婦人科）が務められ、3名の先生方が登壇された。



【案内用チラシ】

各先生方のご講演の概要は、以下の通りである。

➤ 「蘭学者・緒方洪庵にみる東洋医学」

（大阪大学適塾記念センター 准教授 兼任
大阪大学ミュージアム・リンクス 松永和浩先生）

まず、今回のメインとなる緒方洪庵に関連するお話として、洪庵が開設した蘭学塾である適塾の概要について解説があった。また、洪庵の医師としての人物像を蘭方医および東洋医学への関わり方から紐解いた。中でも、洪庵が著した基本処方集には、芍薬、半夏、縮砂等の生薬が掲載されていたり、薬箱には蘭方・漢方由来の生薬が半々ずつ入っていた等、蘭方・漢方薬併用治療を実践していたことを語った。

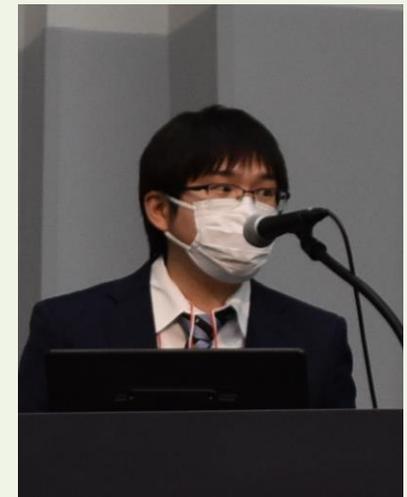


【松永 和浩先生】

➤ 「緒方洪庵系譜とその後」

（関西医科大学総合医療センター 麻酔科 緒方洪輔先生）

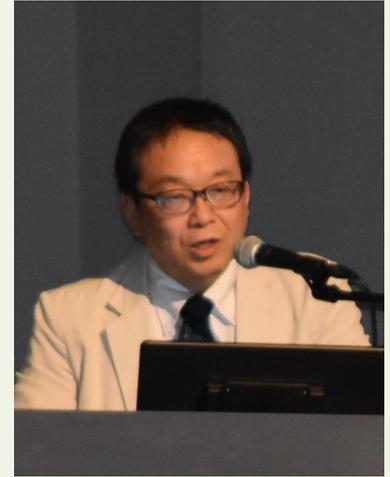
洪庵の末裔にあたる緒方洪輔先生から、まず専門であるペイン領域で使用経験のある漢方薬41処方の紹介があった。その後、緒方家の家系図を示し、洪庵の5男である惟直と森鷗外との交流や洪庵の娘婿である拙斎が著名なオランダ人医師より太田胃散の前身となる胃散の処方を教授されたこと等、緒方家にまつわる数々のエピソードを紹介した。最後に、専門職を特徴づけるスタンスとして、公益性、道徳性、専門性の観点より医師としてのあるべき姿について触れた。



【緒方 洪輔先生】

➤ 「いま、広がる精神～復興支援酒「緒方洪庵」」
 (一般社団法人 NEOのむら 佐藤 功先生)

佐藤先生は、銘酒「緒方洪庵」で名をはせた愛媛県西予市にある緒方酒造が、2018年の西日本豪雨水害で壊滅的な被害を受け、その後、洪庵が開設した適塾の後身である大阪大学が「NEO緒方洪庵」の名で銘酒を復興させた経緯を述べた。さらに、こうした縁により一般社団法人「NEOのむら」が生まれ、かつての災害からの復興を契機とした街づくりを目指し、精力的に取り組んでいる活動の内容を紹介した。



【佐藤 功先生】

講演終了後は、座長や演者の方々が壇上に上がり、ディスカッションの場が設けられた。



【ディスカッションの様子】

来年の日本東洋医学会学術総会は、6月6日(金)～8日(日)の日程で、京王プラザホテル(東京都新宿区)にて開催される予定である。



【三谷 和男先生】

最後は、今回の学術総会の会頭である三谷和男先生から閉会のご挨拶があり、本講座の開催にあたり、関係者の協力に対して謝意等が述べられた。